

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府県	大阪府	市町村	沿川市町		地先	-	

現状の課題

現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針

堤防によって多くの生命と資産が守られている現状において、ソフト施策を含む洪水を地域で受け止める対策を進めるとともに、既存の堤防の強化を緊急的に実施する。既存堤防の強化方策として、高規格堤防と堤防補強を行う。

堤防補強

高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

位置図



具体的な整備内容

緊急に堤防補強を実施する必要がある箇所を決定するために詳細調査を実施する堤防延長は、以下の通りである。調査の結果、必要な箇所について、緊急に堤防補強を実施する。

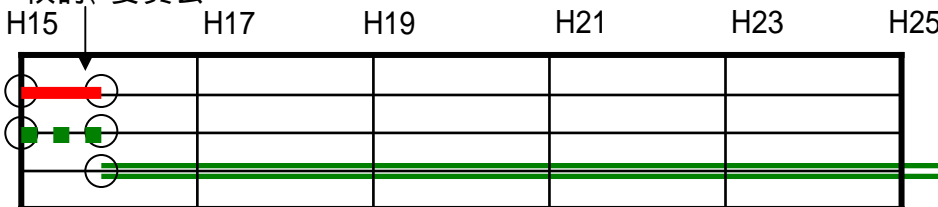
- 淀川 約39km
- 桂川 約 6km
- 木津川下流 約13km
- 木津川上流 約 1km
- 猪名川 約 5km
- 宇治川 約27km
- 瀬田川 約 3km

(各箇所については個別に記す)

\* 1km未満の延長は切り上げて表示している

スケジュール

検討、委員会

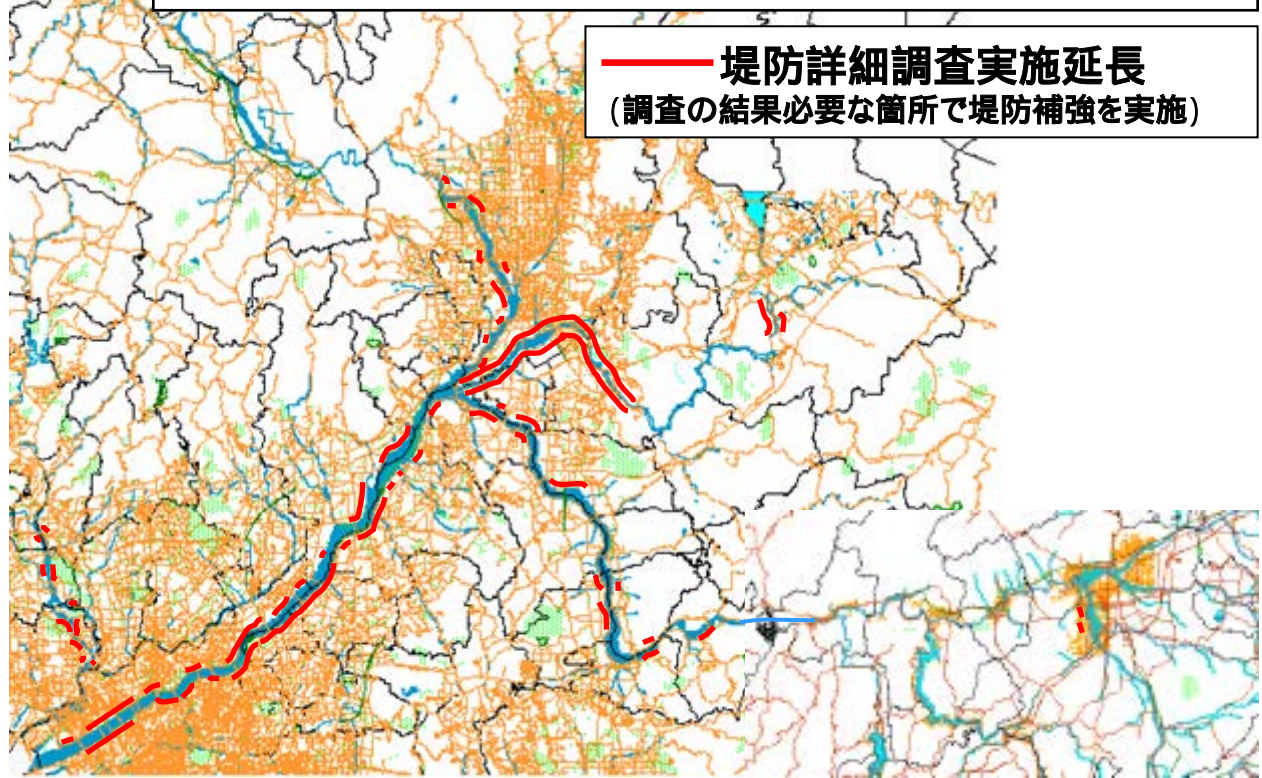


- 検討
- 試行・委員会
- 実施

平面図

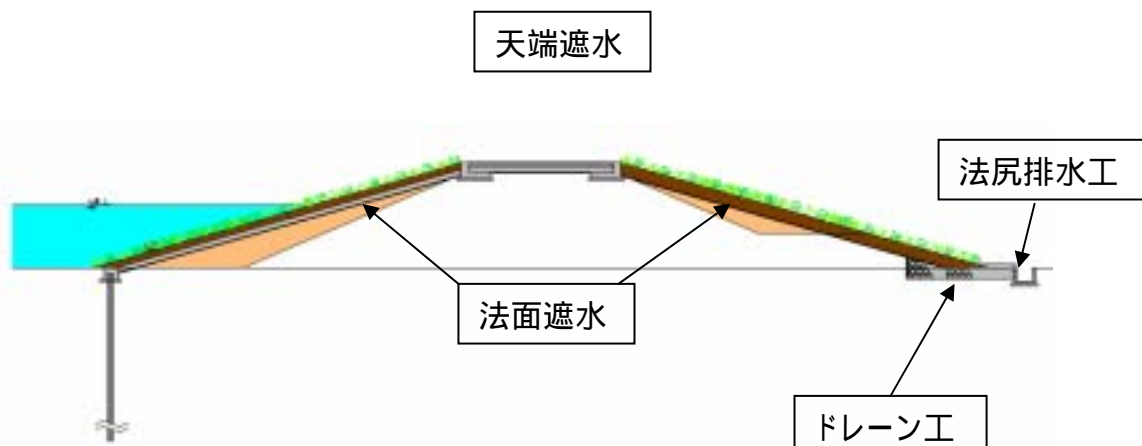
淀川,桂川,木津川下流,木津川上流,猪名川,宇治川,瀬田川

—— 堤防詳細調査実施延長  
(調査の結果必要な箇所で堤防補強を実施)



横断面図

浸透に対する堤防補強



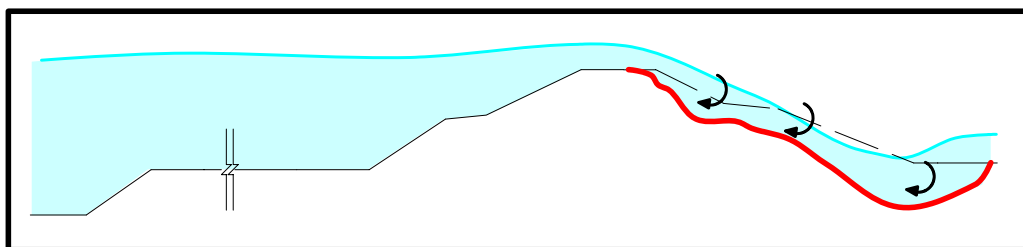
堤防補強の一例

実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

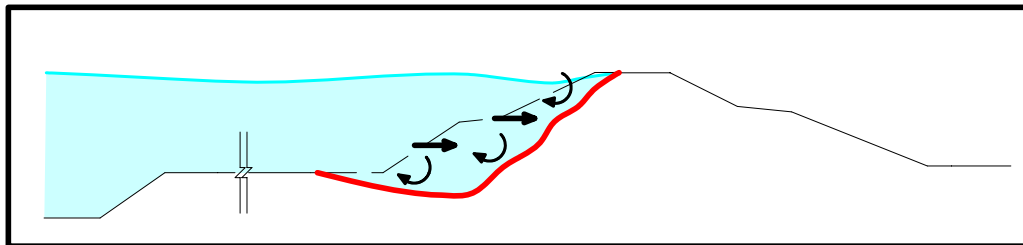
整備効果

破堤要因

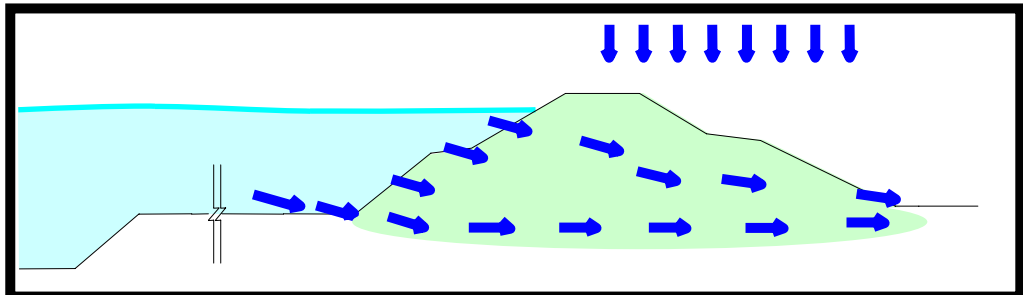
越水



洗掘



浸透



堤防補強することにより堤防が破堤しにくい構造を検討する。

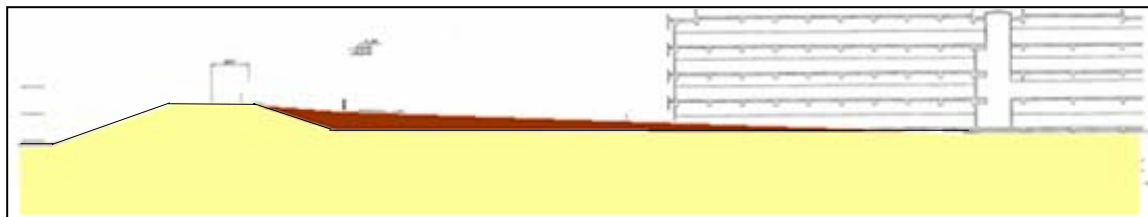
突然の破堤とならないため避難するための時間がかせげる  
かならずしも完全に破堤を防ぐことは出来ない

沿川の土地利用など水害に強いまちづくり施策と一体的に整備が必要

提案理由

高規格堤防 概算事業費 100～300億円/km

- ・最も望ましい堤防強化工法
- ・街づくりとの調整が必要 長期化



堤防補強工法 概算事業費 約18億円/km(下記の構造を例にとれば)

- ・現況堤防に対して格段に強くなる
- ・但し、必ずしも完全に破堤を防ぐことは出来ない
- ・今後 各箇所毎に現地に即した堤防強化を実施



具体的な整備内容

早急に対策が必要な箇所を **「緊急堤防補強区間」を設定**

**「緊急堤防補強区間」** の定義

1)下記の および の両方を満足する区間を原則とする。

既往最大洪水である、昭和28年13号台風等と同量の雨量が降った場合に想定される、河川水位および継続時間、流速から判断して破堤の危険性がある区間

破堤したときの背後地への被害影響の観点から堤防が高いことおよび堤防に隣接して人家が密集している区間

2)瀬田川、宇治川においては、たびたび発生する後期放流による長期の高水位による浸透破堤を考慮する区間

以下を満足する区間を詳細調査を実施する。調査の結果、**必要な箇所について、緊急に堤防補強を実施する。**

**「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4.30設立)**  
にて構造等を早急に検討し実施する。

中島秀雄	(財)河川環境管理財団嘱託
芦田和男	(財)河川環境管理財団総合研究所長
今本博健	京都大学名誉教授 水工技術研究所
宇野尚雄	広島工業大学教授
岡 二三生	京都大学教授
山本晃一	(財)河川環境管理財団 研究総括職
宮本博司	近畿地方整備局 淀川河川事務所長

淀川堤防強化検討委員会委員

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.43	行	1行目
事業名	堤防補強		河川名	淀川			
府 県	大阪府	市町村	大阪市		地先	伝法	

**現状の課題**  
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有しているとはいえない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

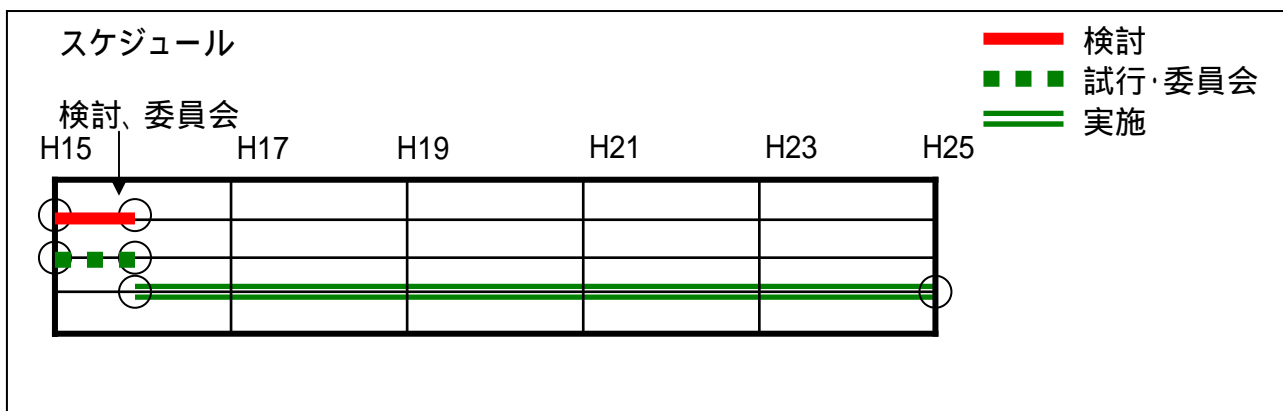
**河川整備の方針**  
**堤防補強**  
 高規格堤防の整備区間及びその他の区間において緊急な対策が必要な区間においては、堤防補強を実施する。併せて、対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急堤防補強区間を設定し優先的に実施する。

**位置図**

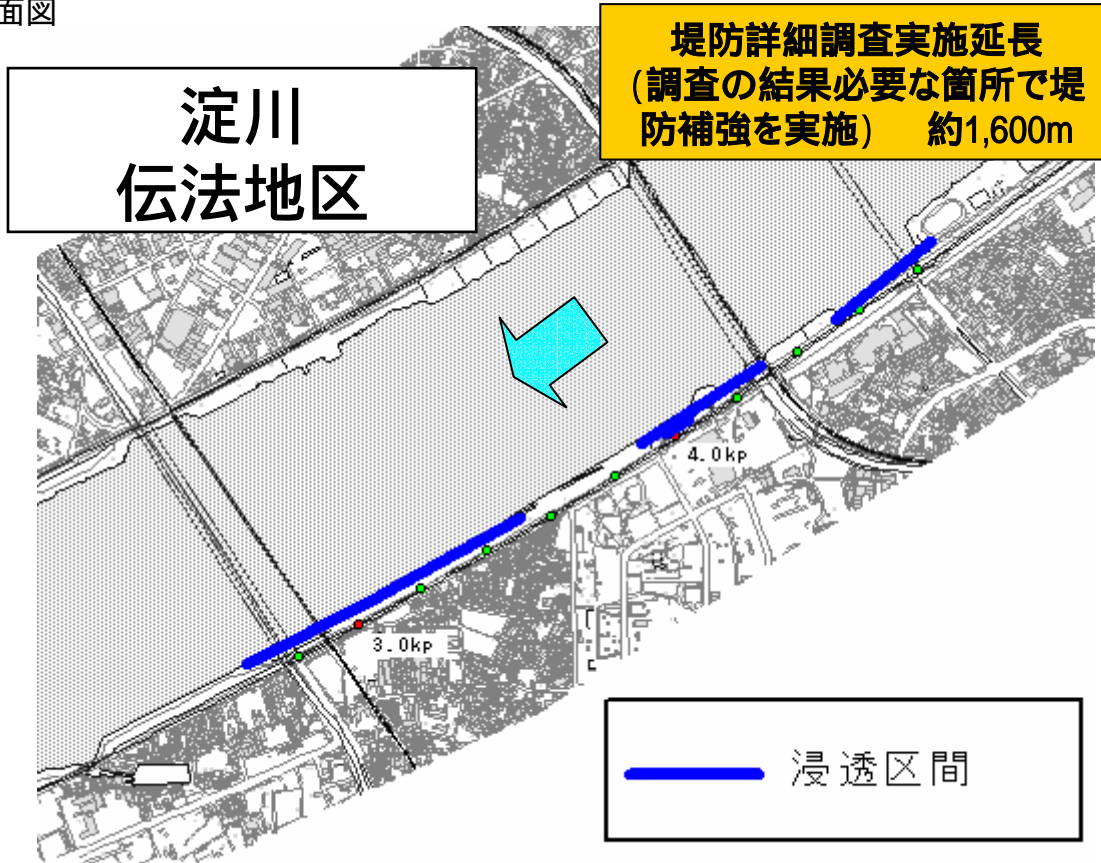
**詳細調査実施箇所**

**具体的な整備内容**  
 ・堤防詳細調査実施延長  
 (調査の結果必要な箇所で堤防補強を実施) 約1,600m

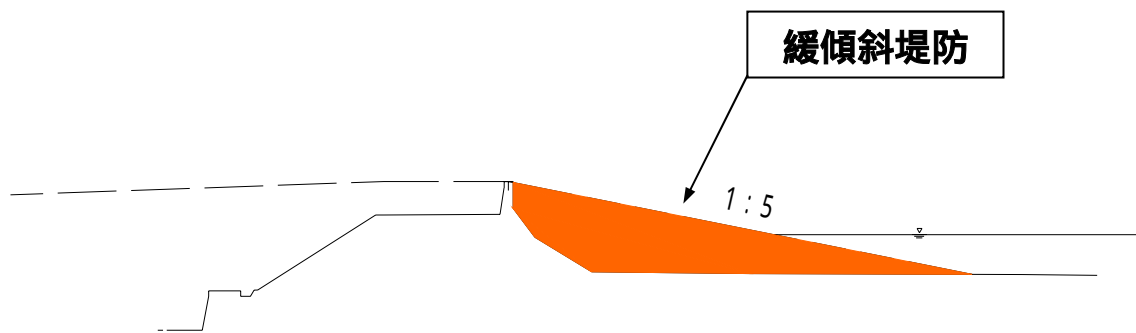
・事業の数量・諸元等  
 浸透対策 約1,600m



平面図



横断面図



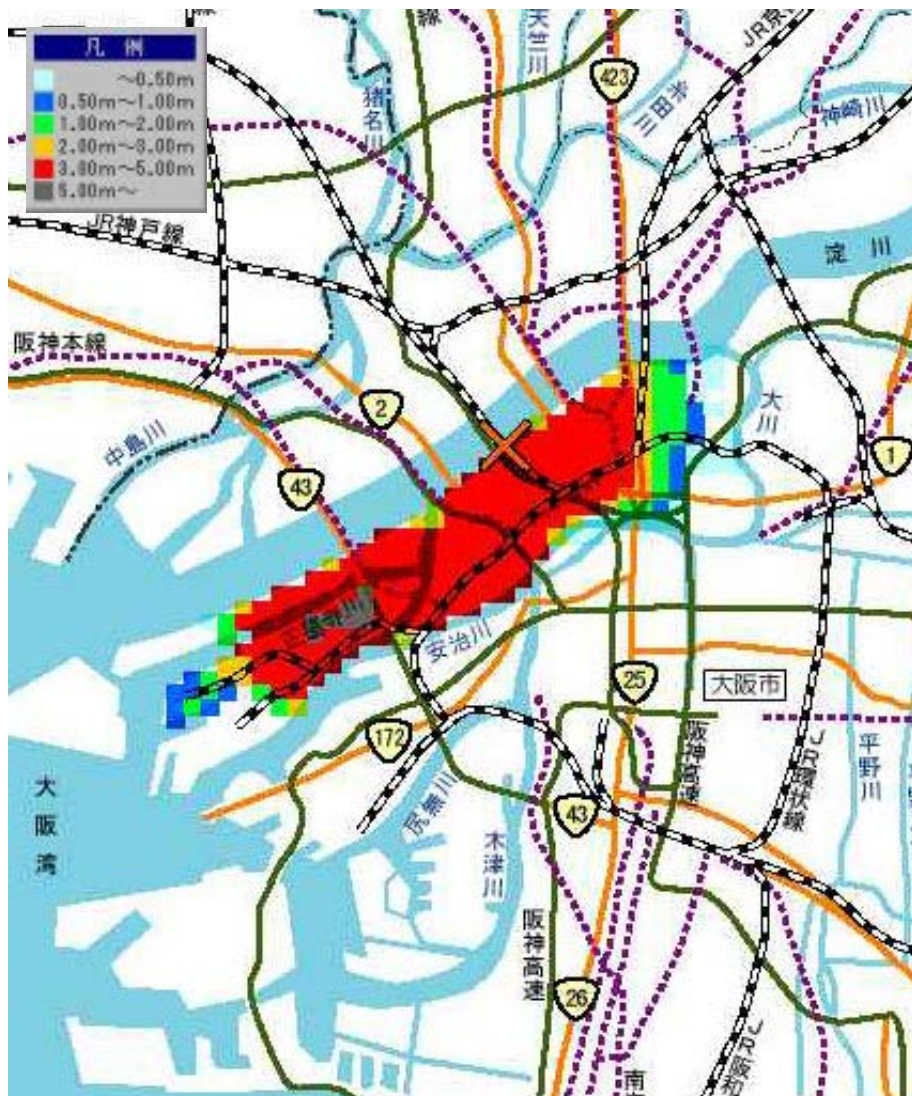
実施にあたり現地に則した具体的補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(H15.4設立)で早急に検討する。

堤防補強対策の一例

整備効果

現状河道でS28.13号台風実績降雨の2倍で計算した場合の流量による想定被害

被害額	114,571	(億円)
浸水面積	1,818	(ha)
被災人口	97,724	(人)
浸水家屋	41,809	(戸)



現地写真

上空



地上

